

平和を作ったために

読谷中学校 三年 梶田 さくら

みなさんは、本当の「平和」とは何だと思

いますか。平和についてこの意見文をよく見る

書き出しですが、この問いは一生消えない

難しい物だと思えます。

私が思う「平和」は、誰もが幸せに生きら

れる権利を持つ事だと思えます。まだ紛争

がおきている国の子どもは、武器をとって苦

しい思いをしないうと今日を生きる事さえ厳し

い。そんなのは絶対間違っているのです。

何の罪もない誰もが、温かいベッドで眠れる

ような世界。それを作れなければ平和を実現

できたとは言えないと思います。

私は沖縄戦で激戦区だった地に住んでおり

小学生の時からガマに行ったり話を聞いたり

して沢山の事を学んできました。どうしよう

も無くなつて我が子を自らの手で殺めた母親

の話。沈没した対馬丸の話。ガマで起きた出

来事。でも平和とはかけ離れており、でも

悲惨な話ばかりでした。平和を作る為には、
私達が、私達が戦争体験者や実際に行ったがマ
の様子を、また次に紡いで繋げて途切れない
ようにしないといけない。そう考えます。戦
争は怖いし、何も生まないし、絶対に何があ
ってももうしてはいけないものという意識を
大切にしていかなければいけないのです。
しかし、それはまだ実現できていません。
一番衝撃を受けたのは、読谷村の悲しい歴史
があるテレビチャンネルが、心霊スポットとして
取り上げられたり、荒らされた事です。気に
なつてネット上で調べてみると、荒らしたのは
沖縄の高校生だと言うのです。少なからず戦
争について学習したはずなのに、肝試しなど
という理由で悲惨な出来事があった場所とし
て大切にされていくがマを荒らすのはどうな
んでしょつか。私はそんなのは絶対に駄目だ
と思います。むしろ戦争の貴重なお話を聞け
る機会が多い私達こそが繋がれてきた幸くも
大切である記録を、残さなければいけないと

思うのです。

また、私が平和を作る為に必要だと思っ
た物は、非核三原則と憲法第九条の「戦争
の放棄」です。非核三原則といふのは、核
兵器をもたず、つくらず、もちこませずと
いう日本の国是です。戦争の放棄といふのは
言葉通りの意味で、こゝらの国是や憲法があ
れば、核兵器を作ったり戦争をする事が出来
ないのです。ともいいます。

最後に、私達に出来る事。総理大臣などの

重い役職につかなくても出来る事は色々あ

ります。

やはり国や民族で考え方が違ふところはあ

るでしょう。でも、新しい病が流行ったり、

恐慌が起こったりした時に助け合う事。実際

に戦争体験者から聞いた話や調べた事を次は

私達が語り継ぐ事。少ない金額でもいいので

募金をしてみる事。この意見文を書いた。自

分でも考えを深め、また誰かが読む事も平和

について考えを深め、また誰かが読む事も平和

な事が出来なくとも、一人一人が平和を作る
ための意識を持ち、小さな事でも行動する事
によつて、やがて大きな力になり、未来を明
るく変えられる。そう信じています。
「小さな事からでも、私達が行動し、私達が
平和を作ろう。」
明るい歴史を、ここから作っていきましょう。